

# GIF準拠ルール

2024/7/22

デジタル基盤センター データT

## GIF準拠の課題

データモデルの機能

GIFのデータモデル準拠のルール

- ◆ GIF準拠と言っても、何を満たせば準拠なのか分からない。
  - 目的
    - GIF準拠の目的は、相互運用性の確保のため。
  - 対象
    - データをやり取りする際のデータの定義（＝インターフェース定義）であるデータモデルを対象とする。

- ◆ GIFのデータモデルは参照モデルのため、どのレベル感を準拠とするか整理&明文化が必要。
  - データモデルの一般論（参照モデルの事ではない）
    - データモデル準拠は、データモデルの定義をすべて守っている事。
  - データモデルの定義の確認（技術的視点）
    - スキーマ（≡データモデルの定義の設定ファイル）を利用したスキーマ検証で最低限確認することが可能。
    - すべてのデータモデルの定義を確認するためには、スキーマだけでは困難。目視確認もしくはツールでの確認が必要。

# 【参考】GIFが主に提供しているもの

- ◆ GIF(政府相互運用性フレームワーク)が主に提供しているもの。
  - コアデータモデル
    - 様々な場面で共通的に参照されるデータセットに関するデータ標準。
    - 共通的に参照されるデータセットをコアデータ(個人、法人、連絡先、住所、施設、...)として選定し、それらの基本的なデータ構造(データモデル)を標準として定義。
  - コアデータパーツ
    - 様々な場面で共通的に利用されるデータ項目の値の記述形式に関するデータ標準。
    - 日付や電話番号など、多くのデータモデルに登場する共通的なデータ項目について、値の記述形式に関する共通形式を定義。
  - 実装データモデル
    - 行政、教育、スマートシティなど分野毎に特化したデータセットに関するデータ標準。
    - コアデータモデルの組み合わせやカスタマイズによって定義。

GIF準拠の課題

データモデルの機能

GIFのデータモデル準拠のルール

- ◆ GIFのデータモデルの主な機能は、データ構造とデータ形式。
  - データ構造
    - 複数の項目の関係（まとまり）
      - 【細分化】 → 項目のまとまり + まとまりの階層構造位置情報
  - データ形式
    - 1つの項目（単項目）の形式

# GIFのデータモデルの機能整理

- ◆ GIFのデータモデルの機能は3パターンに分けられる。

- パターン1

- 形式（コアデータパーツのみ）

- パターン2

- 項目のまとまり＋形式（コアデータパーツ含）

- パターン3

- 項目のまとまり＋まとまりの階層構造位置情報＋形式

技術的なスキーマの情報

\* コアデータパーツ：日付時刻・住所・郵便番号・地理座標・電話番号



GIF準拠の課題

データモデルの機能

GIFのデータモデル準拠のルール

# GIFのデータモデル準拠のルール

- ◆ 機能の3パターンそれぞれに準拠する内容を設定し、準拠にレベル感を持たせる。

## GIF準拠LV1

- コアデータパーツレベルの準拠 (機能のパターン1)  
形式 (コアデータパーツのみ)

## GIF準拠LV2

- コアデータモデルレベルの準拠 (機能のパターン2)  
項目のまとまり + 形式 (コアデータパーツ含)

## GIF準拠LV2s

- コアデータモデルレベルの準拠(スキーマ) (機能のパターン3)  
技術的なスキーマの情報 + 形式

\* コアデータパーツ：日付時刻・住所・郵便番号・地理座標・電話番号

# GIFのデータモデル準拠の確認方法

- ◆ データモデル準拠の確認方法 → 必要なツールの機能は2種類

- GIF準拠LV1

形式（コアデータパーツのみ）

想定確認方法

① パーツ確認

- GIF準拠LV2

項目のまとまり

+ 形式（コアデータパーツ含）

② 項目有無確認

① パーツ確認

- GIF準拠LV2s

項目のまとまり + まとまりの階層構造位置情報

+ 形式

スキーマ

① パーツ確認

# GIFのデータモデル準拠の確認タイミング

## ◆ GIFの準拠確認ツール

- 設計段階：準拠確認EXCEL（仮）にて、準拠有無を確認
- 実データ：実際のデータをツールを利用して準拠有無を確認

### ★設計段階で準拠の確認

準拠確認EXCEL

### ★評価・受入段階で準拠の最終確認

実データ

準拠確認ツール

準拠の確認結果

# 【補足】GIF準拠LV2 の考え方

- ◆ 「GIF準拠LV2」の「項目のまとまり」の考え方
  - 項目の必須・任意の情報（多重度）のみを、データ構造を無視して厳守していること。  
→つまり、項目の有無、多重度を判定する（データ構造は無視）

## コアデータモデル：個人の場合

個人：必須パターン1  
のコアデータモデル

個人：必須パターン4  
のコアデータモデル

個人：必須パターン2  
のコアデータモデル

個人：必須パターン5  
のコアデータモデル

個人：必須パターン3  
のコアデータモデル



5パターンすべての有無、  
多重度の判定を実施

# 【参考】GIF準拠LV1

- ◆ 日付時刻・住所・郵便番号・地理座標・電話番号を扱う項目が、コアデータパーツの内容に準拠しているか
- ◆ 例) 日付の場合



データ側の項目定義に、どの項目がコアデータパーツの対象項目なのか指定が必要

# 【参考】GIF準拠LV2

- ◆ 必須項目が対象に存在するか確認
  - 階層構造は意識しないで確認

## ◆ 例1) 別データモデルのデータに対して確認

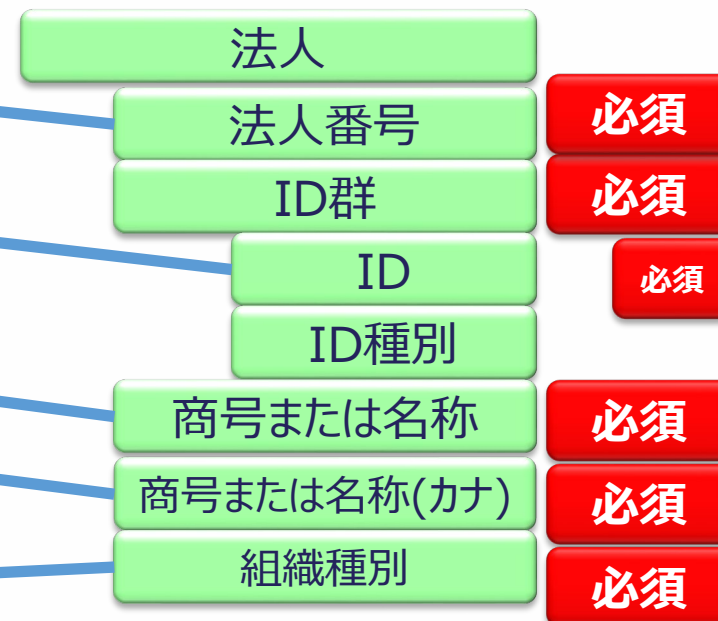
階層構造のデータ



階層構造のデータ



対応項目なし



下記パターン1では  
準拠していない！

注) 形式は合っている前提、上記の図はイメージです。

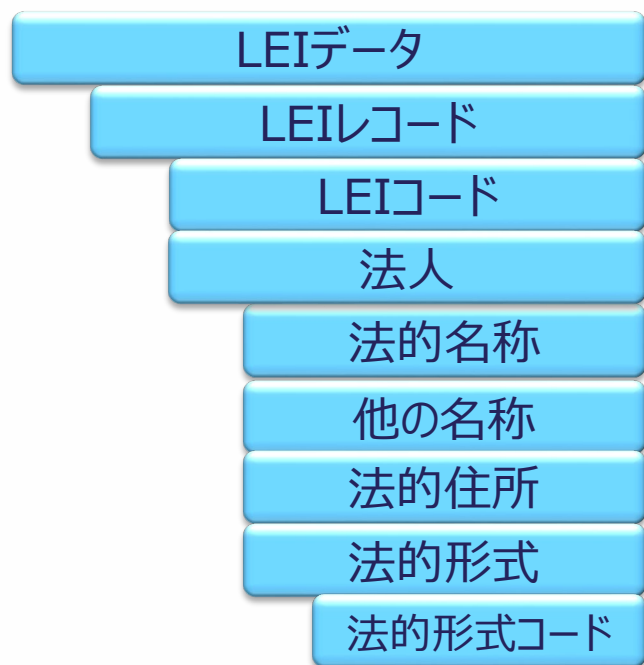


# 【参考】GIF準拠LV2

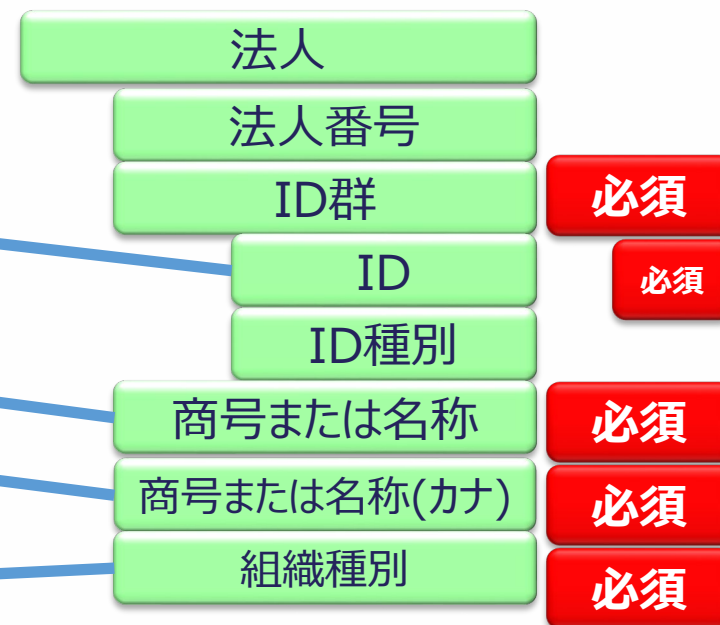
## ◆ 例2) 別データモデルのデータに対して確認

下記パターン2では  
準拠している！！

階層構造のデータ



階層構造のデータ



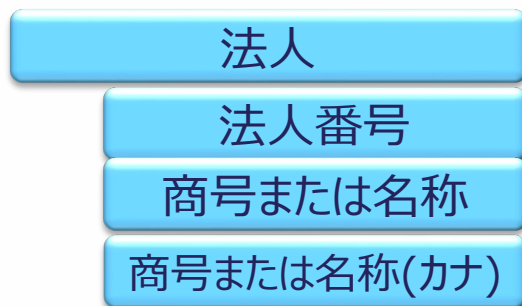
LEIデータ側の項目定義に、どの項目  
が対応するかの情報が必要



# 【参考】GIF準拠LV2s

## ◆ データの階層構造が同じか！！

階層構造のデータ



技術的な  
スキーマの情報

スキーマ検証で確認が可能

上記の場合は  
準拠していない

階層構造のデータ



IPA